第３学年１組　図画工作科学習指導案

千葉市立西小中台小学校
指導者　　吉田　慎太郎

展開　平成 23 年 10 月 18 日（火）5 校時　図工室

１　題材名　「みんなびっくり！こんなものが走ったら」（つくりたいものをつくる）

２　題材について

本題材は、学習指導要領　内容Ａ表現（２）「感じたこと、想像したこと、見たことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。イ　表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表すこと。」にあたる。今回、児童は身の回りの材料を使い、自分だけのオリジナルの車を作る。自分で考えて、自分の好きなものを走らせることができる。そのため、必ずしも車らしい形をしている必要はなく、「こんなものが走ったらおもしろいな」というものを自由に発想する。材料の種類もなるべく多くし、意外な発想が生まれる手助けにする。既存の車のイメージにとらわれず、その子らしい車を作らせたい。

車は、タイヤになる物を車軸と軸受けに３つ以上正しくつけさえすれば、坂道に置いた時、意外なほど簡単に走る。それだけのことだが、自分の作ったものが「動く」というのは、ただ作品が完成したというだけよりもずっとうれしいものである。子どもたちは、自分のお気に入りの形が「車」として動く楽しさを感じることができる。

車の姿かたちだけでなく、構造にも着目させ、様々な材料や作り方の中から好きなものを選んで作らせたい。車輪の大きさだけでも、ペットボトルキャップのように小さいものから紙皿のように大きなものまでさまざまである。また、軸をあえて少しずらしたり、タイヤを凸凹にしたりすることでスムーズではない、面白い走り方になる。ただし、子どもたちにとっては、自分の作った作品が動いたということが喜びになる。逆に、せっかく作った作品が動かないととてもがっかりしてしまう。そのため、様々なタイヤが考えられるが、どの子の作品も必ずきちんと動くよう、構造面にも注意して指導したい。

本学級の児童 22 名のうち、図工が好き、まあまあ好きと答えたのは 17 人（77%）いた。図工の学習で何が好きかという質問には、13 名（59%）が工作と答えており、一番多かった。何が苦手かという質問への回答で最も多かったのは絵を描くことであり、13 名（59%）だった。工作は 4 名（18%）だった。絵を描くことに苦手意識をもっている児童が多いが、工作に関しては比較的苦手意識が低いと言える。子どもたちには、得意・苦手ということを考えず、自由に発想を広げてほしい。

３　題材の目標

- タイヤをつけて動くものをつくったり、動かしたりすることを楽しむ。（関心・意欲・態度）
- 様々な材料を使い、工夫しながら自分の走らせてみたいものを作る。（発想や構想の能力）
- 車軸やタイヤのつけ方、材料を工夫して、よく走るように作る。（創造的な技能）
- 友達の作品のよさや面白さを感じる。（鑑賞の能力）

４　材料

（タイヤや車軸）

ペットボトルのふた、紙皿、紙コップ、紙粘土、セロハンテープの芯、段ボール、竹ひご、針金、ストロー、洗濯ばさみ　など

（車体）

紙（折り紙、ボール紙、板目、画用紙、再生紙）、ペットボトル、ビニール袋、木切れ、割り箸、プラスチック容器、空き箱（紙、缶）、アルミホイル、ラップ、トイレットペーパーの芯、ひも、糸、スズランテープ、綿　など

用具

のり、接着剤、セロハンテープ、ビニールテープ、はさみ、段ボールカッター、千枚通し、カッターマット、色鉛筆、クレヨン　など

5　指導計画（8 時間扱い）

①　構想（2 時間）

・　どんなものが走ったらおもしろいか、みんなで考える。

・　制作の計画を立て、大まかなスケッチをかく。

②　構造作り（3 時間）

・　千枚通しの使い方を知り、ペットボトルキャップに穴をあける。

・　車が走るようにする（車軸とタイヤをつける）にはたくさんの方法があることを知り、自分はどんな方法で作るか考える。

③飾り付け（2 時間）……本時（７／８）

・　自分の作品に合う素材を選んで制作していく。

④鑑賞（1 時間）

・　自分の作品を紹介し、友達の作品の良いところを見つける。

5　本時の指導

（１）　本時の目標

〇材料を生かし、形や見せ方を工夫した車を作ることができる。

（２）　仮説との関わり

仮説

たくさんの材料や、すぐに試せる場を用意すれば、作品の発想が広がり、豊かな表現ができるだろう。

〇全体の場でたくさんのアイディアを挙げる

作品の構想に入る前に、「こんなものが走ったらおもしろい」というものを、自由になるべくたくさん挙げさせる。自分の作品の計画を立てるというとなかなか考えが浮かばない児童も、何でもいいからたくさんと言うといくつも思いつくことができると考える。学級の児童全員分の案をすべて出せば、かなりの数になる。自分でいいアイディアが浮かばなくても、その中から自分の気に入ったものを選んでもいい。

〇たくさんの材料をそろえる

材料を手に取りながら新たな発想が生まれることもある。車だから硬いもの、こんな形、こんな

色、質感、というイメージから抜け出すきっかけにもなる。なかなかいいアイディアが浮かばない時は、材料の形や動き方から車のデザインを考えられるようにしたい。

○すぐに試せる場を用意する

本題材では実際に走る車を作る。走っている姿は作品を見る上で欠かせない点である。走り方はもちろん、作品の見え方も走らせながら試行錯誤をさせたい。また、友達が走らせているのを見て、その作品の発想を取り入れることもできる。

（３） 展開（７／８）

学習活動と内容	教師の支援	評価の観点
１．前時までの活動を振り返る。	○制作途中の作品と、工夫している点を紹介する。 ・ビーズを使うときれいだな。 ・タイヤにも色をつけていいんだ。 ○制作している中で、困っていることもあれば紹介する。 ・ゾウの鼻になる材料を探しています。ちょうどいいものがあったら教えて下さい。 ○作りながらはじめの構想と違ってもいいことを伝え、友達の工夫を取り入れられるようにする。	○友達の作品や工夫した点に関心をもっている。 ○友達の困っている点について、アドバイスしている。
２．課題をつかむ。	いろいろなざい料を使って、自分だけのゆめの車をかん成させよう。	
３．作品づくりをする。	○車体が重くなりすぎるとうまく走らなくなることを確認する。 ○制作が思うように進まない児童には、友達が作っているところや走らせているところ、材料置き場を見てみるよう声をかける。 ○どうしてその材料を使ったのか質問し、児童の工夫の仕方を明確にする。 ○工夫されている点はほめ、発想を広げる意欲を高める。 ○自分が使わないと判断した材料は、材料置き場に置かせ、他の人が使えるようにする。 ○時間になったら、はさみや千枚通しなど危険なものは元の場所に戻す。	○自分のイメージに合うような材料を使っている。 ○発想を広げて自分らしい車を表現している。 ○道具を適切に使い、安全に作業している。
４．自分の作品の紹介をする。 ５．学習の反省を書く。 ６．次時の活動の確認をする。	○自分とは違ったもののよさを認められるよう、それぞれがそれぞれに良いと思えるように進める。 ○自分が工夫した点やうまくいった点だけではなく、友達の作品を見て感じたことも書くよう声をかける。 ○次時は鑑賞を行うことを伝える。	○友達の作品のよさを感じることができる。